



茅野市神長官守矢史料館に並ぶ室町時代から明治時代にかけての午年にちなんだ古文書

守矢文書に記す午年

茅野の史料館で企画展

茅野市神長官守矢史料館

は、室町時代から明治時代にかけて、午年に作成されたり、午年に起きた事件を記したりした守矢文書を紹介する企画展「午年の古文書」を同館で開いている。書状や日誌など14点を並べ、諏訪上社の神官だった神長官を務めた守矢家を取り巻く当時の世相を伝えている。2月23日

まで。

守矢家に残され、同館が所蔵する守矢文書の中から、年ごとに新年の干支にちなんだ史料を公開している恒例の企画展。2008年の子年から始まり、午年に関する展示は2回目となった。

費用を着服しようとしていたらしいことがうかがえる。1546(天文15)年の「千野宗光書状」は、諏方氏の重臣だった千野宗光が神事を勝手に行い、わびた文書と思われる。1594(文禄3)年の「守矢信真目安案」は神長所務地の回復のため、豊臣秀吉の重臣でもあった浅野長政に送ったとみられる。

このほか、刀剣の目利きだった本阿弥家が短刀の価値を判定した1690(元禄3)年の鑑定書や、下伊那郡の村の宮主がふさわしい名を神長官に依頼した1726(享保11)年の文書などを展示。1870(明治3)年の日誌は、神長官が風邪を引いたため、擬祝が一人で神事を行ったことが記述されている。

(手塚洋一)